

松平定信

【まつだいらさだのぶ】

(1758-1829)

江戸後期の老中。陸奥（むつ）白河藩主。田安宗武の子。松平定邦の養子。号は楽翁。藩政に尽力、天明の飢饉（ききん）に藩内で餓死者を出さなかったという。田沼意次失脚後、老中となり寛政の改革を主導した。著「花月草紙」「宇下人言（うげのひとこと）」ほか。

- 幕末辞典 -